

自主研究ミニ・シンポジウムシリーズ

「家庭における人とロボットの共生を考える会」第二回

「教育×アートにおけるロボットの共存」

～ロボットのマルチモダリティがもたらす次世代の学びと表現～

高等研では「科学技術の動向とロボティクスの将来～ロボティクスと家庭の関係～」を議論し、調査・研究を行う自主研究プロジェクトを2022年秋にスタートしました。今回、当自主研究プロジェクト主催の第二回ミニシンポジウムを企画しました。

家庭というサイバーフィジカル空間での存在感が大きくなりつつあるロボットと人の関係は、これまでの道具とユーザという関係から、今後変わっていくと考えられます。そこで、ロボットと共に生きる未来に向け、家庭や教育、そしてアートの現場における新たな共存の可能性を探ります。本シンポジウムでは、10代の子どもたちとのセッションから得られたデータをもとに、家庭や教育現場でのロボット活用、「所作」を取り入れた人とロボットのインタラクションがもたらす影響を考察します。

また、所作が引き出す感性と、ヒューマンインタラクションにおいて人間とロボットのマルチモダリティが融合することで、学びと創造性がどのように豊かになるか、SHOSA プロジェクト（※1）のアーティストや教育者とともに深く議論します。教育現場での「心の触れ合い」を再現するデモンストレーションを通じ、ロボットと人とのコミュニケーションの新しい表現と学びにおける可能性をご覧いただけます。



ロボットとのインタラクション体験の様子

皆さま、奮ってご参加下さい。参加費は無料です。どなたでもご参加頂けます。研究者だけでなく、保護者、教育関係者、アート・創造性を育む教育やビジネスに関心のある方、専門学生や大学生などにも関心をもって頂けると思います。講演・ディスカッションは、オンラ

イン参加も用意しています（参加申し込みして頂くと、接続先をご連絡致します）。

※1 SHOSA プロジェクト

<http://www.geminoid.jp/projects/shosa/>

■日時

2024年11月12日（火） 15:00-17:00

（シンポジウム後に、private networking session の時間を用意しています）

■場所

株式会社国際電気通信基礎技術研究所 2階 旧図書室

アクセス：https://www.atr.jp/map_etc/access_j.html

■プログラム案

15:00-15:05 Opening

15:05-16:00 デモンストレーション体験

16:00-17:00 講演・ディスカッション

（17:15-19:00 Private Networking Session）

■登壇者（所属）【専門分野】（※50音順、敬称略）

- ・石黒 浩（大阪大学 教授／株式会社国際電気通信基礎技術研究所 客員所長）【ロボット工学】
- ・菊地 あかね（株式会社 KiQ）【アート】
- ・マライア シャーミ（株式会社 KiQ）【教育】
- ・船山 智（株式会社国際電気通信基礎技術研究所）【ロボット工学】
- ・宮内 俊樹（株式会社 KiQ）【アート】

■参加申し込み

参加ご希望の方は、前日までに参加登録をお願い致します。会場の都合で誠に申し訳ありませんが、参加者数が20名に達した時点で参加登録を締め切らせて頂きます。ご了承下さい。

登録サイト

<https://peatix.com/event/4170438>

（SHOSA プロジェクトが用意している登録サイトに飛びます。「家庭における人とロボットの共生を考える会」の記載はございませんが、このサイトから参加登録をお願い致します。「チケットを申し込む」をクリックして、現地参加かオンライン参加を選らんで、ログインに進んでください。現地参加もオンライン参加も無料です。）